



2022年 9月2日 金曜日
(令和4年)

知・技の創造

ものづくり大学発

▷82◁

関東平野を環のよつにめぐった山々のなごみ―そのながめ、美しいのも、忘れられぬ印象の一つであった。秋の末、木の葉がどこからともなく街道をふりかきつて連なる。春の霞の薄く被衣のようにか、利根川などから流れてくる堆積物によってできた平坦で広大な地形であること、よつに光る日光の連山、羊の毛の生まれている。私に住むさいたま市の見沼の煙、赤城は近く、榛名は遠く、足利付近の連山の複雑した巒には夕日が絵のよつに美しく光線をみなぎらした。

現在まで残されています。新の超高層ビルが層層（しん）の頃にこの田んぼに水が張られると、縄文の時代に古代人が見ていたであろう海辺の風景が現代に蘇ります。この見沼田んぼは南北7きにわたるほど広大なため、人間の目の高さからすると水平線が

り江でしたが、その後海岸線が見渡せました。海のなない埼玉県が後退して低湿地に変わっていきます。江戸時代のはじめ、この低湿地を拡大した新田とすため、芝川の水をせき止めて巨大なため池を作りました。これが見沼田んぼとして

利根川などの自然との境界でもあります。計画ではあえて2階に多目的ホールを設けています。このホールは水害時の避難所でもあるのですが、北を望むと恵みと共に災害をもたらず利根川水域の自然が、南を望むと変化する街並みを見渡すことができ、過去と未来をつなぐ場となることを意図しています。

岡田 公彦 建設学科 准教授

「平らなこと」が示す未来

北本市では街の計画について検討する委員会に参加しています。北本の特徴として街と自然が隣接し共存していることが挙げられますが、特に荒川沿いの西部地域は、平地です。



おかた・きみひこ ものつくり大学 准教授。横浜市生まれ。その後大宮市（現さいたま市）で育つ。明治大学理工学部建築学科卒。専門は建築設計、デザイン、街づくり。